

PIERLUIGI COLLINA

LONDON
SPEAKER
BUREAU

- The World's most famous referee
- Author of 'The Rules of the Game'



Topics

- Adventure
- Leadership
- Motivational
- Sports

Pierluigi Collinaは元イタリアのサッカーの審判です。彼は史上最高の審判と見なされている。彼は現在UEFAの最高審判責任者兼ウクライナサッカー連盟の審判責任者です。また、イタリアサッカー審判協会AIAの無報酬コンサルタントでもあります。コリーナはボローニャで生まれ、1984年に経済学の学位を取得して卒業し、地元の大学に進学しました。彼の10代の間、彼は地元のチームの中心的なディフェンダーとしてプレーしましたが、1977年に審判のコースを取るよう説得されました。彼はその仕事に特別な適性があることを発見した。

3年以内に彼は最高レベルの地域対戦を執行し、同時に強制的な軍事任務も完了しました。1988年に、彼は全国第三師団、セリエC1とセリエC2に通常より速く進行しました。3シーズンの後、彼はセリエBとセリエAの試合を担当することに昇進しました。

この頃、彼は脱毛症の重篤な形をしていました、その結果彼の顔の毛をすべて失い、彼の独特のハゲの外観を与え、そしてニックネームKojakを得ました。

1995年に、彼は43のセリエA試合で役員を務めた後、彼はFIFAの審判員リストに入れられました。彼は1996年のオリンピックでナイジェリアとアルゼンチンの間の決勝を含む5試合を割り当てられました。彼は、バイエルン・ミュンヘンとマンチェスター・ユナイテッドの間で行われた1999年UEFAチャンピオンズリーグ決勝戦に言及した。最後に歓声が出たため、彼はこれを彼の最も記憶に残るゲームとして挙げました。

2002年に、彼はブラジルとドイツの間のワールドカップ決勝戦に選ばれたとき、彼のキャリアの頂点に達しました。試合前に、オリバー・カーンはアイリッシュ・タイムズにこう語った。「コリーナは世界クラスの審判です。それについては疑いの余地はありませんが、運が悪くないのですか。」彼はコリーナがカーンに関係していた2つの前の注目に値する試合に言及していました：1999年の前述のUEFAチャンピオンズリーグ決勝、バイエルンのための2-1の敗北。カーンの運は決勝で変わらなかった。

彼はバレンシアとオリンピックマルセイユの間の2004年UEFAカップ決勝の審判でした。ユーロ2004は、2005年初めにFIFAのレフリーのための必須の引退年齢45歳に達したので、彼の最後の主要な国際大会でした。彼の最後の国際試合は、リスボンのEstádio da Luzでの2006 FIFAワールドカップ予選のポルトガル - スロバキアでした。イタリアサッカー連盟は、コリーナをさらなるシーズンに対応させるため、定年を46歳に引き上げました。しかし、2005年8月上旬にフェデレーションとコリーナの間で論争が発生した。これは、コリーナがオペルとの主要なスポンサーシップ契約に署名することを決定したためである（イギリスのVauxhall Motorsの広告も）。オペルはセリエAクラブACミランのスポンサーでもあったので、この契約は大きな利益相反と見なされ、コリーナはイタリアでのトップフライトの試合の審判を拒否された。それに応じて、コリーナは辞任を言い渡し、事実上彼のキャリアを終わらせた。その後、イタリア審判協会は辞任を拒否しようとしたが、引退を続けました。

Collinaのキャリアの最大の特徴の1つは、おそらく、2006年のSerie AスキャンダルのJuventusの役人であり主な扇動者であるLuciano Moggiへの憎しみの獲得でした。コリーナは、コギーナがユベントスに対して行った決定に対して罰を課そうとしたMoggiのレフェリーの一人だった。

Collinaは、審判としてビジネスに関連したシンプルな信条を持っています。各チームの戦術を分析して、適切なタイミングで適切な場所にいることを確認し、緊張した状況を迅速かつ公平に回避します。なによりも、あなたの過ちから学びなさい - しかし、それらを補うことによって問題を悪化させる誘惑に抵抗しなさい。